

新潟への誇りと愛着の醸成について

令和2年度第5回新潟市まち・ひと・しごと創生会議における 新潟への誇りと愛着の醸成に関する委員意見概要①

委員名	提案概要	ターゲット	取り組みの要素
早福委員 職員意見 含む	市民運動体制を組んで、若年層をはじめあらゆる世代に、教育現場や地域活動のなかで、新潟の良さを知ってもらう機会を創出する。	若い世代・市民全体	新潟の良さを知る機会
	多様な団体に構成する「男性にも女性にも優しい県パートナーシップ」（仮称）を創設し、18歳～40歳頃の女性をターゲットに新潟にとどまるための支援策を講じる。また、メンタル面の充実のため、人との交流、食農体験、文化スポーツ体験を2つ以上含むイベントへの参加を促す。	女性	新潟での生活基盤を充実する取り組み 新潟での交流や体験の機会
	子どもに対しては、大人が寄り添いながら楽しい思い出づくりができるようにサポートし、また、地元企業による積極的なインターンシップの受け入れなど、地域や働く大人とのつながりを持たせる。 市外の方に対しては、新潟の楽しい情報を定期配信する。	若い世代	新潟での交流や体験の機会
		市外の人	新潟の良さを知る機会
藤澤委員	子どもたちに対し、学校教育を通じて新潟の素晴らしさへの理解を促す。	若い世代	新潟の良さを知る機会
山岸委員	参加型とデジタル活用をキーワードに、取り組みを構築する。例えば、市のホームページ上に市民（スマホ所持世代）が、地域活動の募集や活動の投稿のほか、活動評価をできるサイトを設けるなど、気軽に地域活動に参加できる仕組みをつくる。また、県外転出者を対象にした新幹線広告や、小学生を対象に地元を遊びながら学べるデジタルツールを開発し、新潟の地域イベントや産業などを知ることができる仕組みをつくる。	市民全体	新潟での交流や体験の機会
		市外の人	新潟の良さを知る機会
		若い世代	新潟の良さを知る機会
吉澤委員	子どもたちに対し、学習プログラムの中に取り入れるなどして、地元の良さを知る機会を提供する。	若い世代	新潟の良さを知る機会

令和2年度第5回新潟市まち・ひと・しごと創生会議における 新潟への誇りと愛着の醸成に関する委員意見概要②

委員名	提案概要	ターゲット	取り組みの要素
丸田委員	若者とシニアが活躍するまちづくりを目指し、若者に向けては、医療・保健・福祉の職業に就ける就業環境の整備を行い、シニアに向けては、シニアと若者が連動した実験農場等（シニア×食農×福祉×若者）による新たな産業創出のチャレンジを後押しする。	若い世代 ・シニア	新潟での生活基盤を充実する取り組み
細川委員	自治会等のコミュニティ基盤の活性化を図り、若者層に対してまつり・イベントへの観覧に留まらず踊りや山車引きなどの参加体験を促す。	若い世代	新潟での交流や体験の機会
土田委員	新潟を良い場所にするために、産官学金は市民の自主的な活動を支援するとともに、義務教育期間中に教育・活動・イベントを通じた地元の良さを知る機会の提供を行う。 また、外からの評価によって地元の良さを認識するために、他県の人からの評価につながる取り組みを実施する。	市民全体	新潟での生活基盤を充実する取り組み
		若い世代	新潟での交流や体験の機会
		市外の人	新潟の良さを知る機会
石本委員 (代理： 川崎委員)	地域住民やコミュニティからの意見を取り入れた柔軟な政策立案のもと、産業の少なさを改善する。	市民全体	新潟での生活基盤を充実する取り組み
井上委員	子どもだけでなく、親世代へ遡及させることが重要。大人が取り組みたいと思うような本格的な体験プログラムを用意することで、大人も一緒に地場産業や職人の魅力を知る機会を作ることができる。	親子	新潟での交流や体験の機会
志田委員	まずは市民に新潟の良さを知ってもらうことが重要。子育て世代やUターン者など、それぞれの当事者意見を取り入れて、取り組みを改善していく必要がある。	市民全体	新潟の良さを知る機会
		子育て世代	新潟での生活基盤を充実する取り組み
清野委員	市民茶会実行委員会と新潟市、新潟日報社が共同し、茶道の出前講座を行うなど、子どもたちに様々な日本文化に触れる機会を作る。	若い世代	新潟の良さを知る機会
小見委員	新潟の魅力を知っているだけでなく、地域の大人との関わりとジブンゴトの課題意識から生まれた挑戦体験・成長体験・成功体験を紐づけていくことが重要。	若い世代	新潟での交流や体験の機会

新潟への誇りと愛着を醸成するための方向性について

○新潟への誇りと愛着を醸成に関する創生会議委員意見を集約

新潟の良さを知る機会



- ・学校教育を通じて子どもたちに新潟の良さを伝える
- ・デジタルツール等を活用した伝える仕組みづくり
- ・市外の方に向けて新潟の情報を定期的に発信する

新潟の良さに触れる
機会の増加

新潟での生活基盤を充実する取り組み



- ・若者や高齢者の就業の場の創出（雇用創出）
- ・新潟を良くしようと活動する人たちへの協力
- ・産業活性化に関する取り組み

新潟での生活基盤を充実

新潟での交流や体験の機会



- ・地域のまつりやイベント
- ・地場産業や職人技法の体験プログラム
- ・高校生や大学生等の地域課題や関心への取り組み

交流や体験を通じた
機会の提供

取り組みの方向性

○新潟への誇りと愛着を醸成するためには、若い世代を中心として「新潟の良さに触れる機会の増加」、「新潟での生活基盤の充実」、「交流や体験を通じた機会の提供」を推進すべきとの意見。
そのためには、産官学金労言士のオール新潟それぞれの立場で、できることから展開していくことが必要。

⇒・共通の「ツール」を使った運動化を展開していきたい
・国の第2期総合戦略において「地方創生SDGs_※の推進」が掲げられたことを踏まえ、本市の第2期総合戦略にも方向性を明記していることから、SDGsに絡めてはどうか。

※「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までの国際社会共通の目標